



宮古島市役所、 友利地区を訪問

第一部では宮古島市を訪問。宮古島市から地域の現状や取り組みについて説明を受けるとともに、宮古島市城辺友利地区における具体的事例を調査した。



宮古島市役所、友利地区を訪問。 取り組みを調査

第一部では宮古島市を訪問し、宮古島市の担当者から地域の現状や課題解決への取り組みについて説明を受けるとともに、宮古島市城辺友利地区において実施される『『小さな拠点』づくり』について調査した。

実施日 2月22日(水)～23日(木)

第一部全体実施行程表

日にち・宿泊	時間	内容	担当・受入	場所	備考
第一部 【1日目】 2月22日(水)	9:30 10:30 11:25 12:00 13:00 14:30	那覇空港に集合 JTA557 便 宮古空港到着 レンタカー借受 <昼食> 宮古島市役所到着 概要説明 市内視察	琉大教員 宮古島市企画政策部	那覇空港国内線ビル3階 宮古島市役所 市内	航空券手配 レンタカー手配 宿泊申込み
※宿泊 @ 民宿「ぼんが家」 宮古島市城辺字友利 149-18 TEL (0980) 77-7691 FAX (0980) 77-7692	17:00 18:30	城辺友利地区到着 城辺友利地区意見交換会 交流会<夕食>	城辺友利地区自治会 役員、なりやまあやぐ 実行委員会、さるかの 里(民泊組織)等	城辺友利地区公民館(砂 川農村環境改善センタ ー)	
【2日目】 2月23日(木)	 16:00 17:00 17:45	<朝食> 城辺友利地区視察 <昼食> 市内視察 レンタカー返却 宮古空港到着 JTA564 便 那覇空港到着 解散	琉大教員 宮古島市企画政策部 城辺友利地区	城辺友利地区	



到着初日、宮古空港到着ロビーにて学生のみで記念撮影。14名のメンバーのうち3名は調査などのため欠席

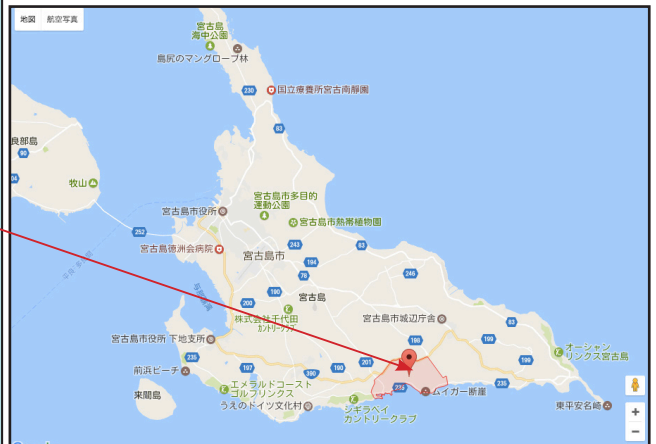


宮古島と友利地区の場所

宮古群島は、北東から南西へ弓状に連なる琉球弧（りゅうきゅうこ）のほぼ中間にあつて、北緯 24 度～ 25 度、東経 125 度～ 126 度を結ぶ網目の中に位置している。

沖縄本島（那覇市）の南西方およそ 300km、石垣島の東北東およそ 130km の距離にあり、宮古島までの交通手段は現在、飛行機のみとなる。

引用：一般社団法人宮古島観光協会公式 web サイト http://www.miyako-guide.net/?page_id=27





集合

那覇空港に9時30分に集合。5分前には到着するようにオリエンテーションで周知。今回ばかりは「沖縄時間」は封印、適用外としたところ、集合時間の1時間前に到着する学生も現れる。



宮古空港到着後、昼食へ

宮古空港に到着後、教員2名がレンタカーを借りに行く。その間、到着ロビーにて宮古島出身の学生が、「宮古の注意事項」を伝える。昼食を「ファミリーレストラン ばっしらいん」にて取り、その後、宮古島市役所に向かう。

※「ばっしらいん」とは、宮古島の方言で「忘れられない」という意味。



宮古島市役所へ

宮古島市役所では、前原敦係長（企画制作部企画調整課地域活性化推進係）より、「宮古島の人口増加に向けた政策」について話を伺う。



市内視察

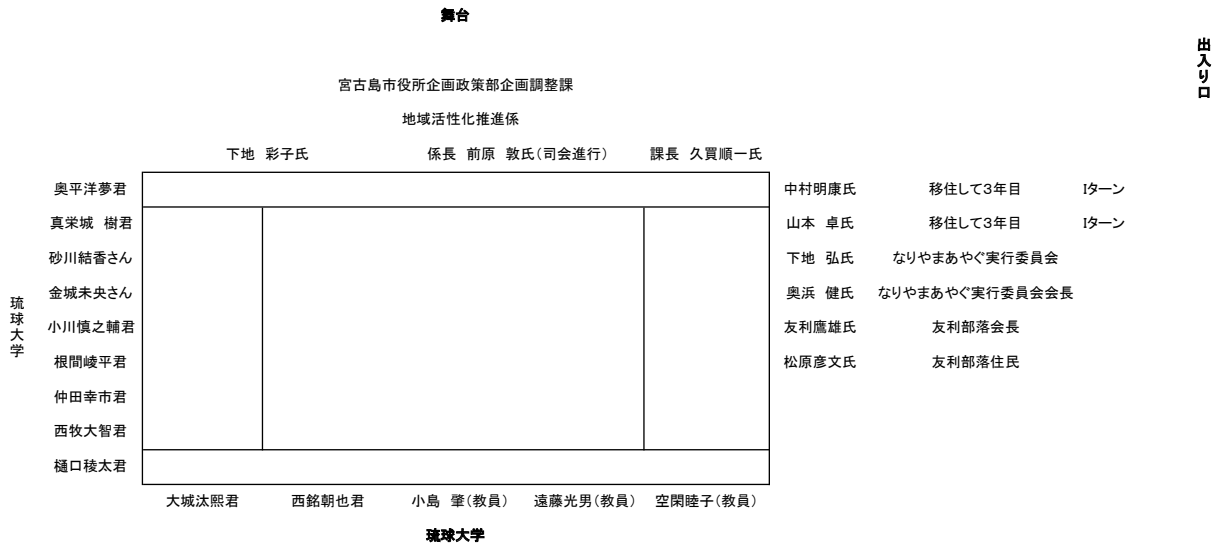
宮古島の説明の後は、市内散策へと出かける。小雨まじりで風も強い日だった。



友利地区へ

今回のプロジェクトの目的は城辺友利地区における地域課題への解決策提案。まず友利地区の現状を把握するための打ち合わせに臨む。当日宿泊する「ばんが家」に荷物を置いた後、友利公民館に集合。前原係長の進行の下、久買順一課長（宮古島市役所企画制作部企画調整課）の挨拶、遠藤教授の挨拶、学生の自己紹介と進み、地区の現状説明を頂く。

◆参加者配置



交流会

地域の問題点や課題の説明を受けた後は、夕食を兼ねての交流会。みんなで準備をした。地区の青年会の代表者も2名合流。三線の調べが流れる中、宮古島の伝統的宴席法「おとおり」が披露された。どこまでも温かく接して下さる地域の方々のご厚意のもと、交流会は賑やかに和やかに進み、1日目は終了した。

第一部 1日目は終了、2日目へ



地区内視察

2日目は、強い雨が降ったり弱まったりと、あいにくの天気の中、友利地区の視察を開始した。歩いてフィールドワークができれば理想的ではあったが、歩き続けられるような雨ではなく、主に車での移動となった。



民泊事業の説明を受ける

「合同会社宮古島さるかの里」の責任者、松原敬子代表から、友利地区について簡単な説明を受けた後、農家の収入源にもなっている「民泊」事業について解説して頂く。

※「宮古島さるかの里」について（「さるかの里」HPより引用）
さるかの里は沖縄県の離島・宮古島で滞在型体験観光の民泊（民家体験）事業を実践しています。全国から修学旅行生や一般の方たちを受け入れて、農作業や島ならではの文化や生活を、宮古島の農家とのふれあいの中で体験し学ぶことができます。なにより人と人との知り合い、親しくなり、家族になる……ささやかな喜びですが、それが大きな宝になるのです。



エコハウスを視察

「郊外型エコハウス」（通称エコハウス）を視察。伝統的な宮古島の建築手法を取り入れているこの「エコハウス」を、宿泊だけでなく、更に有効活用できないか模索する。

※「校外型エコハウス」について（「宮古島市」HPより抜粋）
所在地の友利地区は農業地区で、高齢者の多く住む地域であり、二世帯住宅のニーズの高い地域でもあります。農家・二世帯住宅の南島の伝統的住宅の視点で、母屋（半戶外空間を生かした伝統的間取り）と離れ（半戶外空間でよい距離感をたもつ）から成ります。



金志川豊見親屋敷跡遺跡を視察

友利地区において15～16世紀、地域の有力者であった、金志川豊見親（きんすきやーとうゆみゃ）の屋敷跡遺跡を訪れた。城もあったとされるこの屋敷跡は、案内板によれば1995年と2010年に発掘調査が行われ、国産陶磁器や動物の骨などが発掘されたようだ。



友利元島遺跡を視察

13世紀後半から18世紀後半にかけての集落遺跡「友利元島遺跡」を視察する。インギーマリンガーデンでは毎年10月上旬に特設会場が海上に設置され「なりやまあやぐまつり」が実施される。活発な活動を行っている「なりやまあやぐまつり」実行委員会は、友利の地域づくりの役割も担っている。

※「なりやまあやぐまつり」について（「(公財)日本観光振興協会」HPより抜粋）
宮古民謡の代表曲「なりやまあやぐ」を継承していくことを目的として発祥の地・友利で開催されるまつり。「なりやまあやぐ」とは、妻が夫を諭す教訓歌として宮古では誰もが知っている民謡です。海の中に特設に舞台が作られロウソクと水中照明が舞台を演出、幻想的な雰囲気の中で、美しい歌声が響き渡ります。



友利あま井を視察

その昔、女性たちが生活のための水を大変な苦勞で汲んでいたという自然洞窟の井泉「友利あま井（ともりのあまがー）」を視察した。

※「友利あま井」について（「宮古島アプリ緩道」HPより抜粋）
城辺の字砂川と字友利の境界にあって、友利元島遺跡の西側に隣接する自然洞窟の井泉である。降り口から湧き口までの深さは約20m、自然洞窟井泉の規模としては大きく、水量も豊かである。1965年に城辺で上水道が普及する以前は、この井泉が飲料水を始め、生活を営む上の貴重な水資源であった。水を汲むのは婦女子の日課で、あま井に降りる石段の側面の岩には摩滅してしまったところが数箇所あり、当時の苦勞がしのばれる。



砂川中学校校舎を視察

3年後に閉校になる予定の中学校を視察。グループホームとしての利用など、閉校利用を模索している。卒業生にとっては母校がなくなること、地域住民にとっては閉校で子ども達の声がなくなり寂しくなることなどから、閉校に抵抗を示す人もおり、そのあたりの住民の合意形成も地域づくりには鍵である。

午前9時から2時間ほどかけて行った友利地区の視察は終了。再び宮古島市内の視察へ。



地下ダム資料館を視察

ダムマニアならずとも興味深い「目に見えないダム」宮古島市地下ダム。資料館内には立ち寄らず、地下ダム水位観測施設を見学した。



東平安名崎を視察

東平安名崎（ひがしへんなぎき）を訪れる。冷たい風に雨が混じり、かなり寒くなってくるが、視察は続ける。

※「東平安名崎」について（「宮古島市」HPより抜粋）

県内でも有数の景勝地で日本都市公園百選の認定を受ける。雄大な紺碧の海が2キロ続く。年中「天の梅群生落」（県の天然記念物）におおわれ、特にテッポウユリが咲く春先が美しい。北に東シナ海、南に太平洋を望むことができる。



昼食後、再び地域の学びへ

昼食は昨日と同じ「ばっしらいん」へ。



亀川菓子店

参加学生の一人のおじいちゃんとおばあちゃんが営む洋菓子店へ。開業60年近い老舗だ。たくさんのお菓子を土産に持たせてくれた。

共に80歳を過ぎても今なお毎朝5時に起きて仕込みをしている。「かないません」と孫である学生もしみじみと言。

※宮古島と島根県をつなぐものの一つとして、亀川菓子店のかんを島根視察の際のお土産とした。P.23に関連記事を掲載

第一部終了



第一部の学びのポイント

地域を見て、聞いて、考える①

フィールドワークを行い、実際に見たり聞いたりすることで、読んだり聞いたりしただけでは分からない、地域の“現実”を肌で感じ、理解を深める。友利地区を地域の方にガイドして頂きながら歩くことで、地域への興味・関心を育成する。友利地区のいい部分だけでなく、地域に点在する空き家対策など問題点を率直に語ってもらうことで、問題意識を醸成・共有する。

歴史・文化を守る地域に学ぶ①

地域について考える手がかりの一つとして、歴史や文化に触れる。例えば、宮古民謡の代表曲である『なりやまあやぐ』を継承していくことを目的として毎年10月上旬になりやまあやぐの発祥の地・友利で開催される「なりやまあやぐまつり」。2016年時点で11回を数えた。このような地域の財産をどのように継承し生かしていくか、その意義や課題も含めて考え、また、地域づくりとも絡めて考察し、学びを豊かなものにする。



学生の感想

※「振り返りシート」より抜粋。原文ママ

●法文学部2年男子

「小さな拠点」を利用して、地域の人々を“元気にさせる”というコンセプトも良いと思った。

●法文学部3年女子

文化を活かした観光。新しいものばかりではなく、もともとあるものを活かすこと。民泊や自然を壊さない観光。

●法文学部3年女子

少しずつできることから始める。地域の人々はもちろん、島外県外の人にも弱みを知ってもらって、頼れるところは頼る。

●法文学部3年男子

地域の人と一緒に考えることが、空き家の使い方につながるのかなと思ったので、自分たちのアイデアだけでなく、地域の人と協力し合いながら考えることができたらなあと思った。

●法文学部3年男子

歴史やアイデンティティを持っているので、それを活用するべき。

